

1 計画策定の経緯と目的

1-1 計画策定の経緯

(1) 我が国有数の修験霊場における調査

標高約1200mの南岳・北岳・中岳の3峰から成る信仰の山で、わが国有数の修験霊場である英彦山において、昭和47(1972)年に添田町教育委員会により行われた英彦山民俗緊急調査や、昭和52(1977)年度の福岡県教育委員会・添田町教育委員会による英彦山伝統的建造物群概要調査のほか、昭和57(1982)年から昭和59(1984)年にかけて朝日新聞西部本社主催による英彦山学術調査等、様々な調査が行われて来た。さらに、平成7(1995)年には添田町教育委員会による開発計画に伴う大河辺地区の調査が実施され、その際確認した墓地全域が町指定として保存されることとなった。

(2) 国史跡指定へ向けた取組

平成22(2010)年度から平成26(2014)年度の『添田町第5次総合計画前期計画』において、英彦山の修験道遺跡等の文化財への関心や愛着、保護意識の高揚を図ることが位置づけられ、英彦山内の修験道遺跡を対象とした国指定史跡への取組が推進されてきた。

(3) 総合調査の実施

平成22(2010)年から、添田町教育委員会により英彦山の歴史的範囲と遺跡内容確認調査を5ヵ年にわたって実施され、その歴史や民俗、古文書、考古、美術工芸、建造物の各分野から成る英彦山調査指導委員会による指導のもと、総合的な史跡たる英彦山の調査内容の精査が行われた。平成24年に実施された航空レーザー測量の解析では、門前に645面以上の平坦面が確認され、さらに28棟に及ぶ歴史的建造物の調査により、修験集落の実態が明らかにされた。

(4) 国史跡指定へ

総合調査の実施により、古代以来信仰を集め、大規模な修験集落を形成した我が国を代表する山岳信仰の遺跡であり、我が国の修験・仏教・神道の信仰の在り方を考える上での重要性が認められ、英彦山は平成29(2017)年2月に国の史跡に指定された。

(5) 国指定史跡英彦山保存活用計画の策定

町全体の歴史まちづくりを推進する中で、国指定史跡英彦山及びその周辺地域の適切な保護を推進するため、保護を要する範囲の保存活用の基本方針を明確にし、その範囲における現状変更の取扱基準を定めるなど、史跡の堅実な保存活用を目的として平成31(2019)年3月に策定された。

1-3 策定体制

(1) 委員会の設置と経緯

本計画の策定のため、学識経験者等からなる国指定史跡英彦山整備基本計画策定委員会を組織し、本委員会において計画書の検討を行った。

表 1-1 国指定史跡英彦山整備基本計画策定委員会の開催概要

	日時	協議内容
第 1 回	令和元(2019)年 9月10日	○計画策定の背景・目的・体制、今後の進め方
		○計画骨子の目次、構成
		○史跡の概要
		○史跡の現状と課題
		○全体整備計画
第 2 回	令和元(2019)年 11月18日	○地区整備計画
		○整備事業に必要な調査等に関する計画
		○公開活用に関する計画
		○管理・運営に関する計画
		○事業計画
第 3 回	令和 2 (2020)年 3月5日	○計画書全体



第 1 回策定委員会



第 2 回策定委員会



第 3 回策定委員会

表 1-2 国指定史跡英彦山整備基本計画策定委員会 委員

氏名	所属	分野
包清 博之	九州大学大学院 芸術工学院 環境設計学科 教授 元国指定史跡英彦山保存活用計画策定委員長	ランドスケープ
長野 覺	日本山岳修験学会 顧問 元国指定史跡英彦山保存活用計画策定委員	歴史地理学
河上 信行	(株)河上建築事務所 所長 元国指定史跡英彦山保存活用計画策定委員	建築学
桃崎 祐輔	福岡大学人文学部 歴史学科 教授 元国指定史跡英彦山保存活用計画策定委員	考古学
小池 史哲	福智町教育委員会 生涯学習課 元国指定史跡英彦山保存活用計画策定副委員長	行政経験者

表 1-3 国指定史跡英彦山整備基本計画策定委員会 オブザーバー

氏名	所属
中井 将胤	文化庁文化資源活用課整備部門 文化財調査官
入佐 友一郎	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課 文化財保護係長
下原 幸裕	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課 技術主査

表 1-4 国指定史跡英彦山整備基本計画策定委員会 事務局

氏名	所属
手嶋 徹	添田町まちづくり課 まちづくり課長
岩本 教之	添田町まちづくり課 副課長
野添 満	添田町まちづくり課 歴史文化財係長
西山 紘二	添田町まちづくり課 主査
古田 絵里奈	添田町まちづくり課 主任

(2) 町民や関係機関との検討の経緯

本計画の策定に際しては、パブリックコメントを通じた町民からの意見を踏まえ、計画書の検討を行った。

表 1-5 意見募集の概要

意見募集期間	令和元(2019)年 12 月 26 日(木)～令和 2 (2020)年 1 月 23 日(木) 29 日間
意見募集を行った計画書	国指定史跡英彦山整備基本計画(案)
計画書閲覧の手法	添田町役場 まちづくり課歴史文化財係での閲覧及び町ホームページに掲載(令和元(2019)年 12 月 26 日～令和 2 (2020)年 1 月 23 日)
寄せられた提出書数	2 枚(1 団体) (寄せられた意見数：6 件)

1-4 関連計画との関係

本計画は、平成29(2017)年2月に英彦山が国の史跡に指定されたことにより策定された、『国指定史跡英彦山保存活用計画』(平成31(2019)年3月)を上位計画としている。

本町には、『添田町第5次総合計画』で掲げた、「豊かな自然と歴史のこころがつくる活力のあるまち～まちはひと ひとまちは 連携と協働でつくる自立のまち～」を将来像として、町内外の豊かな自然や歴史・文化を活用し、町の活性化を図る『添田町歴史文化遺産活用まちづくり基本構想』(平成24(2012)年3月)をはじめ、『歴史的風致維持向上計画』(歴まち計画)(平成26(2014)～令和6(2024)年3月)など、添田町の歴史・文化に係る計画等が策定されている。本計画の策定にあたっては、これらの既存の計画等を反映させるほか、平成28(2016)年3月に策定された『英彦山地区再興整備計画』との整合性を図りながら進めるものとする。

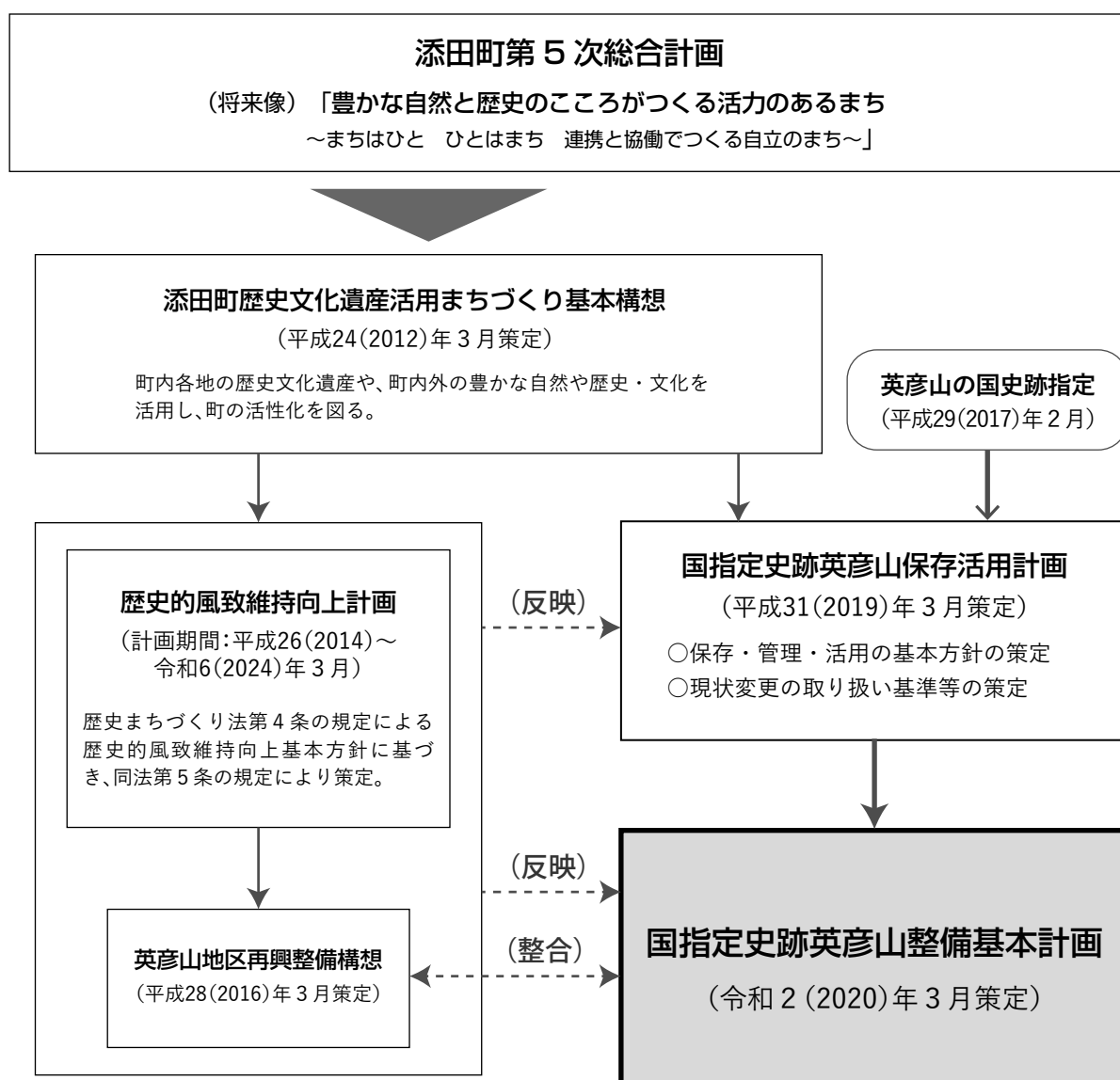


図1-2 国指定史跡英彦山整備基本計画の位置づけ